

# 県内産堆肥を活用した混合堆肥複合肥料の特徴

利用対象：野菜・水稻栽培農家

## 社会背景

国際的肥料価格の高騰は農業経営を圧迫するリスク要因となります。一方、三重県の畜産農家における肥料成分を含んだ余剰堆肥は畜産経営の規模拡大を阻む大きな要因です。

大規模堆肥化施設で堆肥化した県内畜産農家の堆肥をベースに混合堆肥複合肥料を製造することで、堆肥の流通促進と堆肥の肥料成分活用が可能になります。

## 混合堆肥複合肥料の特徴1

試験区 収穫時	10a換算 収量(t)	窒素		リン酸		カリウム	
		吸収量 (kg/10a)	利用率 (%)	吸収量 (kg/10a)	利用率 (%)	吸収量 (kg/10a)	利用率 (%)
化成肥料区	6.9	24.5	39.7	3.55	2.46	32.3	25.9
全量代替区	7.1	23.9	37.9	3.61	3.40	33.4	31.7
基肥代替区	7.0	23.4	35.9	3.63	3.82	32.7	27.9

利用率  
上昇

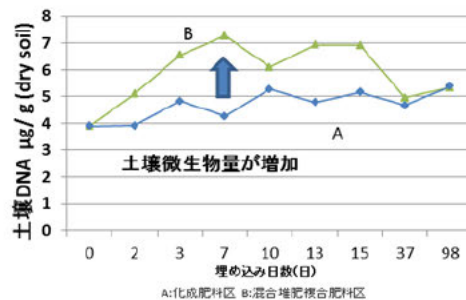
備考1: 秋冬作キャベツ栽培2ヶ年の平均値

備考2: 秋冬作キャベツの標準窒素施用量を基に施肥設計し試験(1反当たりの窒素量、基肥20kg・2度の追肥各5kg)

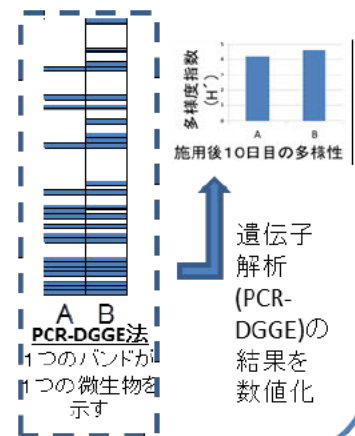
- ①化成肥料と同様に**肥料として栽培適合性を示します。**
- ②化成肥料と比較してリンやカリウムの**養分利用率が向上します。**

## 混合堆肥複合肥料の特徴2

- A: 化成肥料区
  - B: 混合堆肥複合肥料区
- (× 標準施肥量)



多様性(多様度指数)が上昇



**化成肥料に対し土壤微生物多様性・土壤微生物量が高まります**

混合堆肥複合肥料標準施肥量で10日程度多様性を維持

\*秋冬作キャベツの元肥標準窒素施肥量(1反当たり窒素20kg)を元に試験した

## 混合堆肥複合肥料製品の一例



保証成分値  
窒素 12%  
リン酸 14%  
加里 12%  
苦土 2%

県内産堆肥  
利用  
(伊賀地域)

上記の利点を活かした  
混合堆肥複合肥料が  
今年度から販売

お問い合わせ先	フード・循環研究課 森芳広・服部侑・原正之 電話 0598-42-6361 中央農業改良普及センター 下里緑 電話 0598-42-6323
参考になる資料	三重農研HP: <a href="http://www.mate.pref.mie.lg.jp/marc/KenSeika/index.htm">http://www.mate.pref.mie.lg.jp/marc/KenSeika/index.htm</a>